

唯物論

6 1976, 5

唯物論編集委員会編

特集 ● 科学と人間

福田静夫—時代と科学的精神

有尾善繁—科学その階級性について

高田純—科学と価値

菅野礼司—科学方法論をめぐる反科学主義批判

小特集 ● アメリカ独立宣言200周年記念

湯川和夫—アメリカ合衆国独立宣言の思想

H.L. パースンズ—アメリカ独立宣言の意義

● 批判と討論

岩崎允胤—矛盾律と弁証法

林田茂雄—弁証法的矛盾とは何か

許萬元—弁証法的方法の諸問題

汐文社

弁証法的唯物論による認識論の体系的な研究

科学的認識の理論

岩崎允胤・宮原将平著

6月下旬発売

絶賛を博した前著『現代自然科学と唯物弁証法』の成果をうけて弁証法唯物論の見地から、科学的認識の体系的な研究を試みる。マッハ主義、新実証主義、プラグマティズムによる科学方法論の観念的傾向を批判的に克服し、弁証法的論理学の独自の内容を解明。科学的認識の形成と発展の諸契機と科学の方法について、諸科学の統一を展望しつつ積極的な見解を提示した待望の書

○本書の構成

A5判上製函入 480頁 4500円

I 実践と科学的認識 実践とその基本形態としての労働・実践の契機としての科学的認識 ほが II 科学的認識と階級性 科学的階級性・科学的認識とイデオロギー ほが III 反映としての科学的認識 認識論の基礎概念としての反映・物質的なものと観念的なもの ほが IV 科学的認識と思维的論理 思维的論理学・形式論理学と弁証法的論理学との関係 ほが V 科学的認識の発展 未知から知への認識の発展・認識の発展における真理の絶対性と相対性 ほが VI 科学的認識の形成 科学的

発見と仮説の認識・科学的問題とその解決 ほが VII 世界観・世界像(自然像)と科学的認識の形成・発展におけるその役割 世界観と世界像 ほが VIII 科学的認識の体系的構成 公理的方法の意義と限界 ほが IX 科学的認識の分化と統合、および科学の統一 科学的認識の分化と統合の一般的過程・現代における科学的認識の分化と統合 ほが【補遺】物理学における反映形式としての表裏の問題 ほが

岩崎・宮原著

現代自然科学と唯物弁証法

弁証法的唯物論による現代自然観の初の本格的展開として大きな反響をひき起こした哲学者と物理学者の共同研究の書。3500円

フリードラー著／岩崎訳

自然科学と社会科学の統一

現代科学の最新の到達点に即して自然科学と社会科学の統一の現代的意義やマルクス主義の世界観の再構築した著作。1200円

メーユ・デュロワ著／岩崎訳

人間—科学—技術

現代の科学技術革命が個人の生活・人格・思考の全構造に与える影響を究明し、将来の発展法則を探った意欲作。上下各1300円

シュバルテン編／山崎・金光訳

現代科学技術革命論

今日の科学技術革命を過去の産業・生産革命と対比し、その歴史的に位置づけ、それがもたらした社会的諸結果を究明。1400円

■講座現代人の科学12 日本科学者会議編

現代科学の展望

科学と社会の関連、科学と科学者のあるべき姿をも視野に入れて、科学の歴史的發展とその総合的發展の展望を解明。1200円

大月書店

東京都文京区本郷2-11-9
振替口座東京 3-16387
電話03(813)4651(代表)

唯 物 論

第 6 号

『唯物論』編集委員会



汐 文 社